

平成30年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検・評価報告書



保幼合同園児の歌



小学校5年生 理科



中学生だっぴ



IGUSA プロジェクト

平成31年3月

早島町教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催	2
2	研修会及び協議会	4
3	総合教育会議	4
III	教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況	
1	教育委員会の体制	5
2	教育委員会の点検・評価の視点	5
3	教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価	5
	① 会議の運営等	
	② 教育委員会の公開性	
	③ 基本的・総務的な事務の管理	
	④ 人的管理事務	
4	学校教育重点事業に対する評価	9
5	生涯学習重点事業に対する評価	15
IV	点検・評価に関する有識者からの意見	21
V	おわりに	24

I はじめに

1 点検評価の趣旨

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第26条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

2 点検評価の対象及び方法

教育委員会が平成29年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏名	性別	任期
教育長	徳山 順子	女	H27. 12. 26～H33. 12. 25
教育長 職務代理者	大森 茂	男	H29. 4. 1～H33. 3. 31
委員	綾野 克紀	男	H29. 4. 1～H32. 3. 31
委員	竹井 成範	男	H30. 4. 1～H34. 3. 31
委員	栗坂 祐子	女	H30. 10. 1～H34. 9. 30

審議案件等

開催日	議決等事項
4月27日(火)	【議決事項】 (1) 早島町教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について(平成29年度実施事業) (2) 平成30年度教育施策の概要 ～「教育のまち・早島」推進アクションプラン～ 【議事事項】 (3) 平成30年度 早島町教育委員会「働き方改革プラン」
5月25日(金)	【議決事項】 (1) 早島町部活動指導員要項の一部改訂 【議事事項】 (1) 授業等について意見交換 (2) 働き方改革について (3) 国の動向について (4) 研究指定について

6月22日（金）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 幼稚園就園補助金交付要綱の一部改正について</p> <p>(2) 早島町スポーツ推進委員に関する規則の一部改正について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 自学自習教材「CULTEK」について</p> <p>(2) 義務教育学校に向けて</p>
7月20日（金）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 県（町）学力・学習状況調査の概要について</p> <p>(2) その他</p>
8月22日（金）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町教育委員会共催・後援取扱い要綱の一部改正について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 全国学力・学習状況調査の概要について</p> <p>(2) 義務教育学校について</p>
9月18日（火）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 全国学力・学習状況調査結果概要について</p> <p>(2) 小学校授業参観・給食試食会について</p>
10月25日（水）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町総合型地域スポーツクラブ設立準備会設置要綱について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 不登校児童生徒について</p> <p>(2) 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について</p>
11月19日（月）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 早島町立義務教育学校開校に向けた検討について</p> <p>(2) 第1回学校評価アンケートについて</p> <p>(3) 来年度の施策について</p>
12月21日（月）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町立幼稚園園則の一部改正について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 2学期の長期欠席・不登校の状況について</p> <p>(2) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について</p>
1月25日（金）	<p>【議事事項】</p> <p>(1) 授業等について意見交換</p> <p>(2) 平成31年度予算要求と施策について</p> <p>(3) 第2回学校自己評価について</p> <p>(4) 深砂公園テニスコート使用料の見直しについて</p>

2月27日（水）	【議事事項】 (1) 「早島町公民館の管理・運営・施設等の在り方について」 (2) 深砂公園テニスコート等の使用料の改訂について (3) 町民総合会館の設置及び管理に関する条例の一部改正について (4) 早島町立早島幼稚園給食提供業務について (5) 義務教育学校に向けての整備検討について
3月22日（金）	【議事事項】 (1) 平成30年度教育委員会主要事業について (2) 今後の行事について ・平成31年度入学式、授業公開日等

2 研修会及び協議会

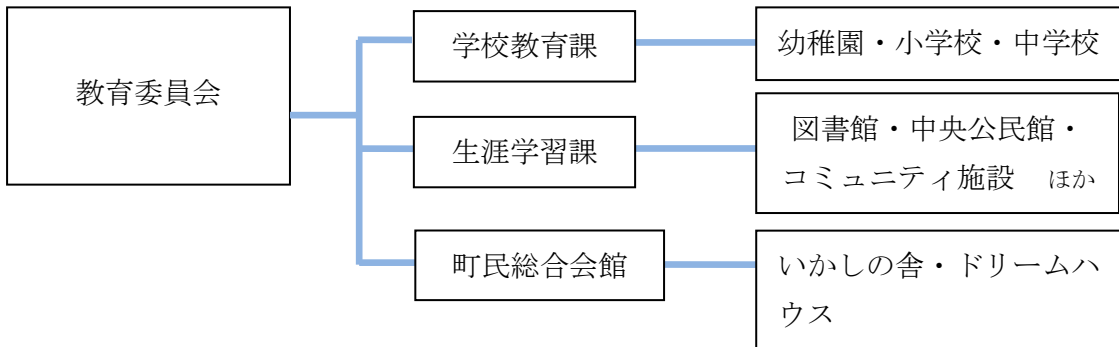
開催日	研 修 会 名 等
5月7日（月）	平成30年度市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会（吉備中央町） 参加者：教育長 他3名
7月19日（火）	平成30年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会（倉敷市） 〔西日本豪雨のため中止〕
8月1日（水）	早島町地域フィールドワーク・ESD教員研修会 参加者：教育長 他1名
8月2日（木）	子どもと大人の意見交流会（第1回熟議） 参加者：教育長 他3名
11月7日（火）	平成30年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会（倉敷市） 参加者：教育長 他3名
1月19日（土）	子どもと大人の意見交流会（第2回熟議） 参加者：教育長 他2名
3月2日（土）	第5回教育のまち・はやしま子どもフォーラム 参加者：教育長 他1名

3 総合教育会議

開催日	議 決 等 事 項
8月22日（金）	第1回総合教育会議 【議事事項】 (1) 義務教育学校について
11月24日（金）	第2回総合教育会議 【議事事項】 (1) 義務教育学校について

III 教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1 教育委員会の体制



2 教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
① 会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
② 教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③ 基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④ 人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

3 教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

① 会議の運営等

項目	会議の回数、円滑な進行
目標	会議の実施回数は年間12回として、事務局から早めに適切な情報を受け、会議運営を円滑に行うことに努めるとともに審議を深めることで、会議の充実を図る。
成果	○開催回数は12回、総合教育会議2回で、充実した審議が行えた。 ○議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換が活発に行った。 ○授業公開日や行事等には、積極的に参加し、各校園の状況を把握した。
評価	・毎回の会議で、事業の進捗状況や校園の様子を理解するなど、円滑に協

	<p>議を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の議決案件については、内容量の多いものについては、引き続き事前の配付を求める。 ・学期毎に学校訪問日の設定や、公開授業・行事等に積極的に参加するなど、学校園の状況把握に努める必要がある。 ・当日の資料配付であり、前日までに配付されると意見が言いやすい。
--	---

② 教育委員会の公開性

項 目	会議の公開、事業内容等の広報
目 標	教育委員会の会議内容や実施事業等を広報誌やホームページへ掲載・公開することで、町民に教育行政に対する関心を高める。
成 果	<p>○早島町学校教育ビジョン、はやしま学支援本部の活動等はホームページや町広報誌、教育フォーラム等で積極的に広報した。</p> <p>○教育委員会会議の概要を毎月ホームページに掲載することができた。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校園の取組や、はやしま学支援本部を中心とした教育活動を様々な方法で、積極的に地域住民等に広報していく。 ・会議録の公表は、会議概要を毎月ホームページ上に引き続き掲載する。 ・義務教育学校の検討についても、保護者や地域の方へ広報していく。 ・教育委員会開催の通知や協議内容について、ホームページへの掲載が遅れることがあった。

項 目	町長等との連携
目 標	町長や教職員、学校運営協議会委員との情報交換を密に行うことで、改善に向けた、貴重な意見を施策に反映する。
成 果	<p>○総合教育会議や課長会議等で、町長部局との情報交換を行った。</p> <p>○事務局を中学校に置き、幼小中合同の学校運営協議会を年6回実施した。また、学校評価の項目として、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化が見えるようにした。また、一貫教育の視点から、学校関係者評価を年2回実施することで、学校運営の改善につなげた。</p> <p>○8月、1月に「子どもと大人の意見交流会（熟議）」を実施し、児童生徒・地域住民が活発な意見交換を行うことで、地域の課題や改善等を共有することができた。</p> <p>○3月の「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」では、学校園の代表が、早島ESDタイムで1年間探究してきた学びを発表し、保護者や地域の方が多く参加してくれ、大変好評であった。</p> <p>○義務教育学校については、学校運営協議会や総合教育会議で意見交換をして、義務教育学校導入に向けて意見が一致した。今後は、その方向性を踏</p>

	まえてハード面や予算面から検討することとした。来年度は、施設部会・カリキュラム部会を立ち上げる。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会については、学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会の各部会の支援活動が充実した。 ・早島町学校教育ビジョンの推進に向けた「はやしま子どもフォーラム」は第5回を迎え、子どもたちの発表が地域への発信力となっている。 ・「子どもと大人の意見交流会（熟議）」は、児童生徒や地域住民から、多くの建設的な意見が出された。熟議で話し合ったことをそれぞれの担当で持ち帰り、課題解決に取り組む流れができつつある。

③ 基本的・総務的な事務の管理

項 目	方針・事務事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
目 標	教育行政重点施策を策定し、円滑に事業が実施されているかを確認する。また、必要に応じて規則の制定・改廃を行う。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定や、規則の改正等に向けて、充実した審議を行った。 ○整備計画では、小学校渡り廊下トイレ洋式化改修工事、小学校給食棟屋上防水修繕工事、小学校1舎中央階段床等修繕工事、小学校メディアルーム改修工事、小学校LAN整備、中学校音楽室床修繕工事、給食棟シャッター等修繕工事、中学校渡り廊下屋根修繕工事等を行った。 ○生涯学習課の事業については、社会教育委員会議において、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の個別施設計画の策定に伴い、施設の中長期的な維持管理の見通しをもち、義務教育学校の整備計画と併せて、改修・修繕工事等を計画的に実施する必要がある。 ・過ごしやすい環境整備のため、小学校トイレ洋式化を計画的に取り組んでいる。 ・小学校1舎2舎トイレ洋式化に伴う設計委託及び学校施設等個別施設計画策定委託は、来年度に繰り越した。

④ 人的管理事務

項 目	教職員等の人事
目 標	幼稚園、小中学校の適正な人員配置を行う。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校においては、35人学級を継続し、充実した学習環境を実現した。 ○小1グッドスタートは、県の配置（4月～10月）に加え、町独自で11・12月を実施し、4月～12月まで支援員を配置できた。 ○中学校では、学校司書を配置し、図書電算化や図書館の環境整備を行うな

	<p>ど、読書活動の充実を図った。</p> <p>○不登校対策として、登校支援員を2名配置しており、登校しにくい児童への家庭訪問など効果的な対応を行うことができた。</p> <p>○業務アシスタントを小中学校に各1名配置し働き方改革の充実を図った。</p> <p>○小学校に英語専科教員を配置し、ALTの配置とともに、英語教育の充実を図った。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における35人以下学級、小1グッドスタートの延長は、落ち着いた学級環境づくりのために継続していく必要がある。 ・小学校英語の教科化に向けて、ALTを小中学校に各1名配置し、英語教育の充実を図っていくとともに、小学校には、英語専科教員を配置し、外国語活動の充実を今後も取り組む必要がある。 ・中学校に学校司書を配置し、電算化や図書館整備を行ったが、読書活動を今後さらに推進するために、引き続き学校図書の計画的な書籍購入を行う必要がある。 ・町費講師を配置しており、有効に活用できている。

項 目	研修の実施
目 標	教育委員会が主催する全学校園の教職員を対象とした研修を計画的・意図的に開催し、指導力の向上に努める。
成 果	<p>○年度当初に、コンプライアンス推進員を中心に、信頼される教職員であるためのサービス研修を行い、不祥事防止の周知徹底を図った。</p> <p>○各学校園では、On-the-Job Training (OJT) の充実を図り、若手教員の指導力を高めるとともに、長期休業中には、道徳、特別支援教育、プログラミング教育、ESDなどの研修を行い、教員としての資質能力の向上を図った。</p> <p>○学級づくり研修会では講師を招聘し、授業参観・師範授業・講義演習を行った。子どもたちへのより良い関わりや声かけについて学び、「ほめ言葉のシャワー」の実践が広がった。</p> <p>○道徳の教科化に向けて、全国的な講師を招聘し、道徳の授業づくりの基礎基本や中心発問のあり方・道徳資料の内容項目や、学習評価の工夫等について研修を行い、「考え・議論する道徳」の授業づくりへの意欲を高めた。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDを踏まえた総合的な学習の時間や道徳の時間の充実など、先進的な内容を計画的・継続的に実施することで、保幼小中学校15年間を見据えたカリキュラムの再構築ができつつある。 ・保育園の職員にも積極的な研修の参加を呼びかけたことで、保幼小中一貫教育の取組がさらに充実している。 ・コンプライアンス研修を充実させ、不祥事防止や指導力向上に向けて、心

	<p>に響く参画型研修やO J Tを効果的に活用するなどして、教職員の指導力を高めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善推進リーダーを中心に、全教員で授業改善を進めていけるよう学力向上研修の改善を図る。 ・SDG sの視点を踏まえてESD教育の充実を図っていく必要があり、教科横断的なカリキュラムの構築を図る必要がある。 ・算数・数学の授業改善を含め、全教科の授業改善を図っていく必要がある。
--	---

4 学校教育重点事業に対する評価

○数値目標

項目	県現状	県目標値 (H32)	早島小		早島中	
			H29	H30	H29	H30
全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国平均との差	【小6】 国A: 0.2 国B: 0.5 算A: 0.4 算B: 0.1 【中3】 国A:▲0.4 国B:▲1.2 数A:▲0.6 数B:▲1.1 (▲マイナス)	10位以内(県) <u>各科目とも+3ポイント以上(町)</u>	【小6】 国A: 3.1 国B: 3.0 算A:▲0.3 算B: 1.5 (▲マイナス)	【小6】 国A:▲1.1 国B:▲1.3 算A:▲3.9 算B:▲2.4 (▲マイナス)	【中3】 国A: 1.5 国B: 3.2 数A: 0.3 数B:▲1.3 (▲マイナス)	【中3】 国A: 1.6 国B: 1.4 数A:▲0.4 数B:▲1.7 (▲マイナス)
学級がうまく機能しない状況が発生している学級数	11学級	9学級	0	0	0	0
小中学校における不登校の出現割合(児童生徒1千人当たり)	13.3人	9.6以下	12.7人 ※(10人)	8.7人 ※(7人)	38.5人 ※(13人)	41.8人 ※(14人)
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小6中3対象)	小6 71.0%	71.0%	71.3%	70.6%	74.0%	66.1%
	中3 59.2%	70.0%				
「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6 70.8%	71.0%	75.9%	66.2%	53.8%	53.2%
	中3 44.9%	47.0%				
「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6 38.5%	50.0%	34.3%	36.1%	15.4%	34.9%
	中3 18.5%	25.0%				
「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6 41.9%	50.0%	46.3%	44.0%	45.2%	43.8%
	中3 38.3%	50.0%				

1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合(小5、中2対象)	小5男子 7.1%	5.2%	6.4%	8.2%	12.0%	3.3%
	中2男子 6.3%	5.8%				
	小5女子 12.5%	11.0%	13.9%	8.9%	21.4%	21.4%
	中2女子 20.6%	21.2%				

○重点事業

重点項目	小中一貫教育の推進
目的	確かな学力と豊かな人間性、健やかな健康・体力を備え、地域とつながり、未来を拓く、はやしまっ子の育成に資するよう一貫教育の推進を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・幼稚園・小学校・中学校の15年間で目指すべき子ども像を踏まえた、付けたい力を明確にした授業改善に取り組み、教員の指導力向上を図る。 ・ ESDの視点を踏まえた探究活動の質の向上・カリキュラムの再構築とともに、教科を中心とした教科横断的な単元学習プログラムの作成を行う。 ・ 小中学校でNIE教育に取り組み、思考力・表現力等を育成する。 ・ 学校園にボルダリング・スラックラインを設置し、遊び感覚で体幹を鍛え、集中力・思考力を磨く。 ・ 小学4年生～小学5年生(理科・社会)、小学6年生(社会)、中学1・2年生(理科・社会)、中学3年生(社会・英語)の町学力調査を行い、児童生徒の学力を把握・分析し、教育指導の成果と課題を検証し、経年比較を行うとともに、全教職員で改善策を徹底することで教育効果を高める。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びの質や深まりに焦点をあて、子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法や保幼小中合同で15年間を見通した研修を行い、教員の指導力向上を図った。 ○ ESDの視点を踏まえた生活科・総合的な学習の時間を核にして、校種・学年を越えた単元学習プログラムを作成することで、課題探究や行動化への意欲向上につながった。 ○ 小中学校でNIEに取り組み、中学校では職場体験の様子を新聞にしたり、部活動新聞を発行し部活動の魅力を小学校に発信するなど生徒の主体的な活動によって、思考力・表現力の高まりがみられた。 ○ 幼稚園にボルダリング、小学校にスラックラインとボルダリング、中学校にスラックラインを設置し、体育の授業等で活用することで体幹を鍛えている。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力・学習状況調査結果から、小中学校ともに全国平均を下回る結果であり、特に算数・数学は全国平均との差が大きく課題である。全学年で授業改善と復習の徹底に取り組む。 ・ 学びの質や深まりに焦点をあて、各教科・道徳・総合的な学習の時間等において子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法につ

	<p>いて講師を招聘し、参画型の研修会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の研究指定を受けている中学校を中心に、E S Dの視点を踏まえた探究活動の質の向上・カリキュラムの再構築に学校園が一体となって取り組む。 ・児童生徒の学力調査結果から、学年の経年比較を分析し、教育指導の成果と課題を検証し、全教職員で改善策を徹底することで教育効果を高める。 ・算数・数学に焦点を当てた、学力保障に取り組む。
--	---

重点項目	早島町学校教育ビジョンの充実
目的	地域とつながり未来を拓く子どもの育成に向けて、保幼小中の一貫した教育を進める。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援コーディネーターやサブコーディネーターを中心に、放課後・土曜はやしま塾、土曜英会話塾、はやしま国際塾、ロゲイニング等を企画・運営し、学校外での子どもたちの学びの場を提供する。 ・教育支援コーディネーターを中心とした支援体制を構築し、大学生や留学生の確保、地域住民、保護者による「早島っ子サポートボランティア」の人材確保をする。 ・「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す。 ・「子ども議会」「子どもと大人の熟議」「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」「早島英語暗唱コンテスト」等を学習成果の発表の場とし、地域に開かれた提案発信をする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「協働・協学・協育」の町づくりを目指し、はやしま学協働本部を設置し、教育支援コーディネーターを中心に、社会教育ではやしま学の活動について企画・運営を行った。児童生徒の地域での学びの機会を保障するため、放課後・休日のはやしま塾や国際塾、土曜英会話塾を開催した。 ○中学1年生を対象に、生き方を考える「だっぴ」の開催や、2年生を対象に、留学生との交流「早島 English Day」を開催し、大変好評であった。 ○英語で表現豊かにコミュニケーションをしようとする力の育成を目指して12月に英語暗唱コンテストを開催し、小中学生が10名参加した。 ○熟議や子ども議会、はやしま子どもフォーラムなど、園児児童生徒の地域提案を発信する場づくりは好評であった。 ○早島町学校教育ビジョン推進委員会を6回開催し、4部会を設置し、一貫教育の推進に向けて、保幼小中の教員が4部会で研究に取り組んだ。 ○中高生や留学生を中心に企画・運営を行い、「第1回早島 I G U S A 花ごびんポン世界大会」は大成功であり、中学生ボランティアも多く活躍した。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育ビジョンの部会で様々な視点から意見交流はできたが、各教科で、カリキュラム作成や授業改善など具体の取組を行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後・土曜はやしま塾、土曜英会話塾、はやしま国際塾、ロゲイニング等の更なる工夫とともに、大学や専門機関との連携で English Bus や科学ツアーを行い、子どもたちの学びや体験の場を保障する。 ・協働活動推進員（教育支援コーディネーター）を中心とした支援体制のもと、大学生や留学生の活用、地域住民、保護者による「早島っ子サポートボランティア」の人材確保に努める。 ・ロゲイニングや「English Day」、「第2回早島 I G U S A花ごぞピンポン世界大会」を通して、環太平洋大学等の留学生との交流の場を広げる。 ・「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す手だてを工夫する。 ・英語・漢字検定に加えて、数学検定も年3回実施予定であり、英語検定では、早島町英検受検応援制度の活用をして英検3級以上の取得を目指す。
--	---

重点項目	不登校対策事業の継続
目的	不登校児童生徒への対応と未然防止を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町ふれあい教室に支援員を週5日配置することで、教育委員会と学校が連携して不登校児童生徒の生活リズムの改善や学校への登校を促す。 ・不登校対策担当者会を2か月に1回実施し、登校支援員、担当教員及び教育委員会が情報を共有したり講師を招いて研修したりすることで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に取り組む。 ・町で「不登校親の会」を年3回開催し、個別相談や保護者会を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待を聴き取り、保護者支援・学校支援を行う。 ・小学校登校支援員2名の配置により、きめ細かな支援を行うとともに、小中学校ともスクールカウンセラーの効果的な活用に取り組む。
成果	<p>○適応指導教室（ふれあい教室）や中学校心の教室に、支援員を配置し、児童生徒の居場所づくりができた。</p> <p>○幼稚園・小学校・中学校の登校支援員・担当教員などが不登校対策担当者会で支援カードを用いて情報を共有し、欠席状況や家庭環境等を把握することで、早期対応や個別支援につながった。</p> <p>○小学4年生～中学3年生まで年2回実施する hyper Q-U調査の活用により、児童生徒一人一人の多面的理解や学級集団への所属感などを把握し、ほめ言葉のシャワー等、具体の取組を全教員で行うことで、教育効果を高めた。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校ともに、長期欠席・不登校の児童生徒数はやや増加しており、低学年から家庭の事情等により登校しぶりが見られた。 ・スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの活用頻度は高くなったが、ケース会議や研修の充実、関係機関との連携など、更なる改善に取り組む。 ・適応指導教室（ふれあい教室）に支援員を週5日配置し、学校との連携を深

	<p>め、不登校児童生徒の生活リズムの改善や学校への登校をサポートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策担当者会を2か月に1回実施し、登校支援員、担当教員及び教育委員会が、「校種間・他機関との連携を大切にした家庭支援の在り方について」をテーマに、保幼小中の情報を共有し、講師を招いて研修することで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に徹底して取り組む。 ・町教委で「不登校親の会」を開催し、個別相談や保護者会を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待を聴き取り、保護者支援・学校支援を行う。 ・小学校登校支援員の効果的な活用や、小中学校でのスクールカウンセラーやソーシャルワーカーの効果的な活用を更に進めていく。
--	--

重点項目	学校におけるICT教育の推進
目的	ICTの活用により、児童生徒の学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における情報教育支援員の配置を継続する。 ・小学校にiPadを100台購入し授業の充実を図るなど、ICT機器の効果的な利活用について研究推進する。 ・小中学校に教室用パソコン（小学校30台、中学校15台）を配置し、児童生徒の学び合いがICT機器を媒介として効果的に活用できる授業工夫を行う。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ICT機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間を確保する。 ・小学校段階におけるプログラミング教育の実施に向けて、教職員研修の実施や、情報教育推進に向けたリーダーの育成を行う。
成果	<p>○情報教育支援員の効果的な活用を模索し、職務の見直しを図った。</p> <p>○小中学校に、教室用パソコン（小学校30台、中学校15台）を配置し、児童生徒の学び合いがICT機器を媒介として効果的に活用できる授業工夫を行った。また、小学校にiPadを100台購入し、授業の充実を図った。</p> <p>○小中学校とも、デジタル教科書の使用を通して、視覚的效果を高めるなど、授業の中でICT機器を積極的に活用し、児童生徒の学習意欲を高めた。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童生徒に、電子教材「CULTEK」の個人パスワードを渡し、家庭学習の充実を図ったが、更なる利用度を高める。 ・全教職員が、ICT機器を活用した具体的な指導法の研修やプログラミング教育の充実に向けた研修に、継続的に取り組む。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ICT機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間の確保と働き方改革を行う。 ・小学校段階におけるプログラミング教育の実施に向けて、教職員研修の実施や、情報教育推進に向けたリーダーの育成を行う。

	・教室用パソコンや iPad の効果的な活用を進めていく。
--	-------------------------------

重点項目	小学1年生グッドスタート事業の補充
目的	小学校へ入学する児童の生活習慣や基礎学力の向上を支援する。
計画	・小学1年生の生活習慣の確立や基礎学力の向上、小1プロブレムの解消のため4～12月の期間教育補助員を雇用し、教育の充実を図る。
成果	○支援員を各学級に配置することで、児童一人一人が安心して過ごすことができる環境を整えることができた。
今後の方向性	・小1プロブレムの解消のため、継続した配置を行っていく。

重点項目	グローバル人材の育成
目的	外国や日本の文化に親しみ、英語でのコミュニケーション能力を高め、国際的視野を広げる。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での英語教育を先行実施するため、英語専科の教員を配置する。 ・小学6年生の英語の授業で、オンライン英会話をを行い、実践力を高める。 ・英語に慣れ親しみ、スピーキング・リスニング能力の基礎を培うため、ALT（外国語指導助手）を小学校・幼稚園に1名配置する。また、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るため、中学校に1名配置する。 ・小学校英語の授業化に向けて、小中指導カリキュラムを作成する。 ・英語暗唱コンテストを実施し、国際人としての基礎を培う。 ・土曜英会話塾では小学5年生～中学3年生を対象に、年15回開講し、実践的な英語表現を身につける機会を提供する。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニングや、英語・母国語での絵本の読み聞かせ、キッズイングリッシュ等を通して、異文化理解や世界への視野を広げる。 ・英語検定3級以上の取得に対して、同一級1回のみ受験料を無料とする。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校では英語専科の配置により、ALTと連携した学習の充実やカリキュラム作成を行うことができた。 ○小学校5・6年生でフィリピンとのオンライン英会話を実施し、5～6名のグループで英語に触れながら実践力を高めることができた。 ○幼稚園での英語でダンスや、小学1年生からの外国語活動を通して、英語での会話に慣れ親しんできた。 ○英会話塾や英語暗唱コンテストの実施により、地域で生きた英語にふれる機会を設けた。

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・英検 3 級以上の取得を目指して、英語検定応援制度の周知と活用をさらに推進する。 ・英語部会で、小中連携の英語授業のカリキュラムを作成したが、更なる見直しを行う。 ・小学校の英語の先行実施に伴い、専科英語教員の配置とオンライン英会話の導入、中学校では I C T を活用した英語の授業づくりを進める。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニング、英語・母国語での絵本の読み聞かせ、幼稚園でのキッズイングリッシュ等を通して、異文化理解や世界に視野を広げる場を引き続き設定する。 ・英語暗唱コンテストや A L T を活用した英会話塾の内容の充実を図る。 ・小中学校の英語授業のカリキュラムを作成する。
--------	---

重点項目	幼稚園預かり保育事業の充実
目的	保護者の子育て支援を行う。
計画	・早島町の子育てを充実させるために、預かり保育の指導員を配置し、幼稚園の開園時間以外の預かり保育を行う。
成果	<p>○預かり保育は 1 日概ね 5 0 ～ 5 5 人を預かり、2 名の預かり支援員と 2 名の教育支援員とで行った。</p> <p>○夜 7 時までとしているが、ほぼ 6 時までのお迎えが多く、7 時までは 1 ～ 2 名であった。</p>
今後の方向性	・早島町の子育てを充実させるために、預かり保育の支援員を継続的に配置し、預かり保育の充実を図る。

5 生涯学習重点事業に対する評価

重点項目	「まなびの舎」の講座・教室の充実
目的	自己研鑽の場を提供するとともに、その成果を地域に生かす生涯学習のリーダーを育成する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・大人はやしま塾としての「まなびの舎」の講座内容を、健康・歴史・E S D（ふるさと）の 3 分野として、地域への愛着や誇りを感じる、より充実した内容にする。 ・地元企業や団体との連携、小学生との合同実施を増やすことで、より地域愛につなげる講座とする。 ・取得した単位により、受講者をサポーターや講師に認定し、講座の運営等に参画できるようにするため、「まなびの舎だより」や広報誌での更なる周知に努める。 ・認定者や講師認定者には、地域の中でコーディネーターとして活躍できる場

	を設定し、「まなびの舎」での学びを地域に還元していく道筋をつくる。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○講座内容の充実と、まなびの舎だよりでのPR等により、出席率（H29:25%→H30:30%）が増加した。 ○「まなびの舎だより」の発行（全6回）や広報誌（全4回）への掲示により、多くの方に周知できた。 ○30単位以上の認定者（H29:26人→H30:33人）が増加し、講座の受付補助に加え、ロゲイニングや科学教室のスタッフとして関わっている。 ○100単位以上の講師認定者（H29:6名→H30:11名）が増加している。 ○地元企業と連携し、施設の見学を実施したことにより、受講者がより地域の実情を知るきっかけとなった。 ○小学生との合同講座を実施することで、受講者の知見を地域の教育に活かすことができた。 ○来年度に向けた検討会を実施し、受講者自身で改善点や講座の内容等を検討できた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・講師認定者の活用の在り方を検討する。 ・若い世代の受講者が少ないので、日程や内容、広報等の工夫を行う。 ・地元企業・団体・大学との連携や小学生との合同実施をさらに増やし、より地域を知り、地域に貢献するための講座を検討する。 ・講師認定者が講師となる講座の実施を検討する。（講師認定者での講座検討会の実施等） ・若い世代の受講者を増やすため、子育てに関する講座や体験等をさらに取り入れた内容を検討する。

重点項目	社会教育施設の整備事業
目 的	施設の整備を行い、利用しやすい環境づくりを目指す。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・いぶき荘のトイレの洋式化を行う。 ・町立図書館では、読書しやすい環境整備を行うとともに、小中学校図書館とのネットワーク化を図る。 ・中央公民館の老朽化した体育施設を新設する。 ・ゆるびの舎の空調設備を修繕する。 ・深砂テニスコートの全面改修を行う。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○いぶき荘、町立図書館、深砂テニスコートの施設整備は完了し、利用しやすい環境を提供できることとなった。 ○老朽化した体育倉庫は撤去し、南倉庫へ移転した。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるびの舎の空調設備は来年度に更新する。 ・老朽化している施設や設備が多いため、点検等を行い、計画的に修繕や更新による整備を進めていく。

	・順次、社会公共施設のトイレの洋式化を進める。
--	-------------------------

重点項目	地域コミュニティの活性化
目的	希薄化した地域コミュニティの再構築を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつりや町民運動会、町民ソフトボール大会、生涯学習まつりなどのイベントを通して、内容の充実・工夫を図るとともに、実行委員会等を活用して、町民相互の更なる交流に努める。また、小中学生の積極的な参加やボランティア活動を支援する。 ・地域の方への広報誌等での周知はもちろん、学校園を通して園児児童生徒に広報していくことで、行事等への参加を促していき、地域とのつながり・かかわりを育てていく。 ・地域防災訓練では、児童生徒も参加できるよう学校園に協力を促す。
成果	○夏まつり（7月豪雨により中止）、町民運動会（新規）、生涯学習まつり、マラソン・駅伝大会（新規）でボランティアを募集した。町民運動会では中学生に運営に携わってもらい、参加者からも好評だった。マラソン・駅伝大会では一般と中学生のボランティアが集まり、相互の交流が生まれた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン・駅伝大会ではボランティアの当日欠席があり、スタッフの負荷が増した。係の人数配分に余裕を持ち、欠席者ができても柔軟に対応できる体制にする。 ・引き続き各種イベントにおいてボランティアや実行委員等に町民に参画してもらい、活躍の場を提供していくと同時に、参加者同士の交流が生まれる工夫をし、地域コミュニティの活性化を目指す。

重点項目	地域ぐるみによる教育体制の構築
目的	学習支援や体験活動を中心とした「はやしま学」を通して、地域ぐるみの教育体制を築きながら、郷土愛を深め、社会貢献意識を高める。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日・放課後・長期休業日を利用し、補充学習や発展学習、体験学習など魅力ある講座として、はやしま塾、ロゲイニング、国際塾、英会話塾、夏休みわくわくタイム等の事業の充実を図る。 ・地域の方や教職員等がスタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制の構築を目指す。 ・ロゲイニングや絵本の読み聞かせ等で、環太平洋大学の留学生と、早島の魅力を再発見するとともに、世界への視野を広げる。 ・夏季休業中の小学生には、わくわくサマーホリデーを25日間開催し、学習習慣の定着や様々な体験活動によって視野を広げる。 ・国際塾や英会話塾では、国際的に活躍する人物や外国人の講師、留学生と触

	<p>れ合いなどを通して、国際的な視野を広げるとともに、異文化理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア、学生ボランティアの拡充を図る。 ・漢字検定・英語検定3級以上の取得を目指し、支援体制をつくる。
成 果	<p>○環太平洋大学の留学生を中心に、ロゲイニング、英会話塾、絵本の読み聞かせ等で、小中学生が留学生と町内で一緒に活動することで、早島の魅力を再発見できたとともに、アジアなど他国への興味・関心が高まり、異文化理解を深めることができた。</p> <p>○まなびの舎の受講者がスタッフとして子どもたちの指導や安全管理を行い、地域ぐるみで子どもを育てる教育体制を強化できた。</p> <p>○夏季休業中のわくわくサマーホリデーの日数や内容を充実（H29:10 日間→H30:学習タイム 15 日間、体験タイム 10 日間）させたことで申込人数が増加（H29:109 人→H30:141 人）し、小学生の学習習慣づくりや、学習意欲の向上に資することもできた。</p> <p>○英語検定・漢字検定は、応援制度の活用などにより参加者が増加した。（英検 H29:118 人→H30:170 人）（漢検 H29:214 人→H30:228 人）</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・はやしま塾や英会話塾などに中学生の参加を増やす工夫を行う。 ・大学生ボランティアの参加数が減っているため、大学への協力を促す。 ・わくわくサマーホリデーの会場を小学校にして、できるだけ多くの小学生が参加できるようにする。 ・中学生の参加を増やすために、広報や会場・実施日を工夫し、参加者としてだけでなく、スタッフや講師として活躍できる場も増やす。 ・大学へのボランティア説明会を積極的に実施するとともに、指導方法などは大学生にとってやりがいのある内容になるように工夫する。

重点項目	公民館モデル検討懇談会での提言まとめ
目 的	新たな公民館モデルについて、2年間の提言をまとめる。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の検討懇談会を開催する。 ・先進地視察等を行い、新たな公民館モデルとしての在り方を意見交換して、提言にまとめる。
成 果	<p>○本年度、4回の公民館モデル検討懇談会を開催し、計画どおり「早島町公民館の管理・運営・施設等の在り方に係る提言書」を早島町長に提出することができた。</p> <p>○現在の公民館は、学びの舎講座の充実やシニア英会話などで優良公民館として文部科学大臣表彰を受けることができた。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・新公民館に向けて、用地や場所、現施設の利用や跡地の問題等について検討する。 ・全庁的な計画・組織の中で、「早島町公民館の管理・運営・施設等の在り方

	に係る提言書」を基に、ステップを踏みながら進めていく。 ・現在の公民館の内容の充実をさらに進めていく。
--	--

重点項目	健康づくりとスポーツ活動の推進
目的	町民の運動習慣確立とニュースポーツの普及に努め、健康づくりを推進する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操講習会、ウォーキング講習会を開催する。 ・年齢・性別を問わず、楽しめるボルダリングやスラックライン等のニュースポーツを実施するとともに、新たなニュースポーツを模索する。 ・地域総合型スポーツクラブの設置に向けて、検討を行う。
成果	<p>○町民運動会では元世界チャンピオンによるパフォーマンスを実施し、世界レベルの技術に触れることができた。いきいき広場では昨年に続きボルダリング、スラックラインの体験会を実施し、体験希望者の行列が絶えないほど好評だった。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブの設置に向けた協議会を立ち上げ、検討を行い、種目（ボルダリング・スラックライン・花ごぎピンポン・グラウンドゴルフ）が決定した。平成31年4月から参加者を募集する。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・行政主導で総合型地域スポーツクラブを設置するため、今後の運営に関わる人材の発掘や自立した運営に引き継いでもらうための土台作りをする。 ・体育行事や総合型地域スポーツクラブでの活動を通じて、子どもから高齢者まで町民の運動習慣の確立や世代交流を促す。 ・総合型地域スポーツクラブの活動を進めていく中で参加者のニーズを集め、活動内容について検討を続ける。

重点項目	子育て支援の充実
目的	親育ち応援プログラムを活用し、ファシリテーター養成講座を開講し、保護者会等でコーディネーターのできる地域の方を育成する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員やPTA保護者、地域の方をファシリテーターとして養成する。 ・保護者会や懇談会等で、ファシリテーターを活用して、親育ち応援学習プログラムの内容を広め、子育て支援に努める。
成果	<p>○養成したファシリテーターが幼稚園やPTAの研修会で親プロのファシリテーターとして、保護者同士の学び合いを支えることができた。</p> <p>○養成講座の講師として、先輩ファシリテーターとして体験を話したり、自分たちが行ったプログラムを紹介して養成講座を充実させた。</p> <p>○小学校の教員の受講もあり、学級懇談等での活用も期待できる。</p> <p>○子育て支援として「はやしまプレーパーク」を試行し、好評であった。</p>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターのチームをつくり、活躍の場づくりを進めるとともに、親育ち応援学習プログラムによる親同士の学び合いを広げる。 ・教員や保護者など、受講者を増やす工夫を行う。 ・プレーパークを月1回開催し、就学前の子どもや保護者の支援を行う。 ・家庭支援チーム「すくすくハート」を立ち上げ、子育てサロンの充実を図る。
--------	--

重点項目	ゆるびの舎の20周年記念事業、自主事業の充実
目的	ゆるびの舎の創立20周年記念を祝うとともに、町民の芸術・文化意識の向上を図るために、様々なジャンルの場の設定を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的著名な演奏家、元ベルリンフィルコンサートマスター 安永徹氏を迎え、県内ゆかりの若手演奏家で「YURUBI 祝祭室内管弦楽団」を結成し、国内外へ発信する。 ・早島中学校吹奏楽部を中心に、近隣の中学校吹奏楽部や地域のアマチアバンドと一緒にコンサートを開催する。 ・20周年記念として、心と身体健康づくりをテーマに、落語会を開き、町民とともに祝いする。 ・NHKとの共催事業を行い、マスコミに発信する。 ・様々なジャンルの場の提供として、演劇鑑賞を取り入れる。
成果	<p>○20周年記念事業として「三遊亭円楽、春風亭小朝」による落語会を開催しチケットは完売した。来場者からは「生で聞けて良かった」「すごく笑えて楽しかった」など、心の健康づくりの推進を図ることができた。</p> <p>○近年、行っていなかった演劇を「はやしまアートフェスティバル」と題して開催し、日本舞踊家の「花柳大日翠」と、岡山で活躍する劇団「EN 劇集団さんたばっぐ」による公演を行った。「花柳大日翠」による、現代テーマを日本舞踊で表現した創作作品「東京」と、「EN 劇集団さんたばっぐ」によるハイスピードファンタジー作品「33」が上演され、来場者からは「“東京”を観て自分の生活と重なり涙があふれた」「ハイスピードな展開にドキドキした」などの意見が寄せられた。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度に引き続き、町民の心の健康づくりの推進を図ることを目的に、プロによるお笑い・落語会イベントを開催する。 ・様々なジャンルの場の提供として、高校演劇を誘致し、町民に気軽に演劇鑑賞する機会を設ける。また、出演する高校生に対して、舞台仕込みの講習を行い、舞台技術に対する興味をもってもらおう。

重点項目	図書館活動の充実
目的	図書館機能を活かした、読書活動の推進を図る。

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町立図書館と小中学校図書館とのネットワーク化を行い、蔵書を増やすとともに、机・椅子の整備等、読書環境づくりを行う。 ・ 2階のスタディスペースを広げ、自由に学習できる環境を整備する。 ・ 朗読や図書館チャレンジ体験等、講座や体験活動の充実を図る。 ・ 留学生との外国の絵本の読み聞かせを行う。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ システム更新に伴い、利用者の利便性の向上を図り、小中学校図書館とのネットワーク化により、蔵書の有効活用が図れた。 ○ 雑誌・新聞コーナーの机・椅子の買い替えやオープンスタディスペースの机・椅子の増設、1階の絵本コーナーに隣接したキッズコーナーの新設など読書環境の向上に努め、利用者から大変喜ばれた。 ○ 地域ボランティアや環太平洋大学の留学生の協力を得て、外国語の絵本をはじめ、幅広い分野の絵本の読み聞かせを行い、成果があった。 ○ 朗読講座の受講生と講師による朗読発表の開催や様々な講座を実施したが、どれも好評であった。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校図書館とのネットワーク化を活用して学校支援の充実に努める。 ・ 様々な行事への参加人数を増やすため、ホームページの充実を図るとともに広報等に取り組み、読書層を広げる。 ・ 絵本コーナーの充実を図り、子どもの読書環境を整備する。 ・ 町全体の読書量を増やす工夫を行う。

IV 点検・評価に関する有識者からの意見

岡山大学大学院 准教授 村松 敦

教育委員会活動について

月1回以上の教育委員会会議の開催や、年2回の町長との総合教育会議、学校関係者・地域住民の代表や学識経験者、子ども達を含めて様々な立場の方々を集め、熟議を重ねてこられたのは、当事者意識を高める上で欠かせないことであり、その努力に深く敬意を表します。特に、教育委員会会議については事前の資料配付だけでなく、議事録の公開を行っていくには事務局にとって相当の労力が必要だったことと拝察します。

こうした中、特筆すべきは、「子どもと大人の意見交流会（熟議）」や「子ども議会」、「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」が、年々回を重ねるごとに、充実をしてきており、「協働・協学・協育の町づくり」に向けて、着実に進んでいると思います。こうして蒔いた種が、地域とつながり未来を拓く「早島っ子」に触発され、地域の大人達にまちづくり（人づくり）に対する「当事者意識」が芽吹き始めているように感じます。

事務局によって分かりやすく工夫された町広報誌の誌面は魅力的ですが、教育委員会会議でも提案があったように、マスコミに取り上げられる回数も増えてきているようですので、今後は、新聞やテレビなどマスメディアの活用をさらに発展させることを希望します。それだけのコンテンツになり得ていると思いますし、子どもはもちろんのこと、彼らを指

導する教職員、地域の皆さんにとっても一層励みになることと思います。

なお、学校施設の改修や人的配置についてですが、限られた予算ですから評価にも記載のとおり中長期的な展望が不可欠です。たとえば、トイレの洋式化やボルダリング施設の設置などは時代の流れに沿った良い取組だと思いますが、早島町学校教育ビジョンや教育振興基本計画に照らしてどのように位置付けられるのかを明確にしていきながら、前向きな取組を意図的・計画的に推進してください。今後、総合教育会議において、町の総合計画との調整や義務教育学校に向けての具体的な取組などが必要になることと思います。

学校教育について

学校教育における「はやしま学」は、幼小中12年間のカリキュラムづくりから、その効果的な実施に向けた研修や幼保を巻き込んだチームによる研究へと新たなステージへと進んでいます。中でも特筆すべきは、国のESD研究指定を受け、全国発信をしたことで、早島のESD研究が全国の注目を集めていることです。また、こうしたことを励みとして、教職員のカリキュラム開発や授業改善への意識が高まってきているとのことで、文部科学省での最終報告や作成したリーフレットからも、大きな成果を得ていると確信をしました。来年度からは中学校を中心にESD研究に取り組むことを楽しみにしています。

また、「教育のまち・はやしま子どもフォーラム」のステージで異なる服装の保育園児と幼稚園児が元気に歌ったこともすばらしいと思います。設置者の異なる保育園にまで学校教育ビジョンに対する「当事者意識」が浸透し、本当の意味で全ての町民が学び合い育ち合う中心に、子どもと学校園があることを参加者が実感した瞬間だったと思います。この幼稚園・保育園との連携発表も2回目となり、幼稚園や保育園は保護者と密接に関わり合っているのので、この広がりや地域へのインパクトが大きかったはずですが、今後は学校園の主体性を基軸に、保幼小中学校園の縦の軸と、家庭・地域との横の軸が互いに織り合いながら、子どもたちの姿からの発信が、町の活性化に大きな影響を及ぼすものと信じています。持続可能な教育の取組にするためには、いかに地域力をブランドとして学校園の教育力に活かしていくのか、さらに学校園の教育力をいかに地域力に活かしていくのか、持続可能な協働・協学・協育の基盤は必要不可欠であります。

なお、数値目標のうち「地域行事へ参加している」と回答した小中学生が着実に増えていることは嬉しいことですが、不登校については、早期発見と適切な初期対応は欠かせません。町適応指導教室「ふれあい教室」や中学校の「心の教室」、小学校での登校支援員の複数対応により、少しずつ成果が出てきていますが、長期化した子ども達に対するサポートを更に進めていく必要があります。一人一人を大切に潤いあふれる一貫教育が、地域に誇りと愛情をもつ子どもの育成につながることを期待しています。今後も、「喜んで登校、満足して下校、行かせたい学校園、行きたい学校園」を目指して、地域一体となった取組を進めてください。

生涯学習について

今年度は生涯学習に対する重点項目の増加が顕著です。このことだけでも、学校教育ビジョンの「子どもと学校を中心に置いて、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、“協働・協学・協育”の町づくりを進める」と謳っていることが具現化している証だと思えます。中でも特筆すべきは、昨年度から更に、公民館講座の登録人数や単位認定者が急増していることや、外国の絵本の読み聞かせやはやしま塾、ロゲイニングなどに環太平洋大学の留学生が継続的に関わっていることではないでしょうか。地域の方が100単位を認定されるまで受講したり、日本人と同様に英語を母語としない留学生が、第二言語である英語で日本人と関わろうとしたりするのは、そこに自らを豊かにできる充実感があるからこそ、活動に「当事者意識」が生まれているように感じます。講師認定された方が、公民館講座だけでなく子ども達や留学生に教えたり、留学生が公民館講座の講師や子ども達から早島や日本を学んだりするような広がりも持続可能な好循環につながっていくのかもしれない。また、中高生や留学生が企画・運営した「花ごぎピンポン世界大会」の成功は、伝統文化を大切に作る心や郷土への誇りを育てる行事であり、すばらしい大会であったと思えます。早島には高校はありませんが、近隣の高校生との連携は中学生にとっても刺激的であり、中高生中心とした、第2回大会の企画・運営にも大いに期待しています。

なお、放課後・土曜はやしま塾、はやしま国際塾、土曜英会話塾など、学校外に多様な学びの場があり、英語検定・漢字検定の表彰制度、英語暗唱コンテストといった学んだことの手応えを実感できる枠組みもできましたが、必ずしも参加者が多いものばかりではないようです。参加者数だけが全てではありませんが、量的拡充も含め、質的充実を大切にいただき、整理統合を検討する必要もあります。学校教育の充実は生涯学習の充実でもあり、今後も、「生涯学習のまち・早島」として、より一層の推進を期待しています。

今後に向けて

様々な立場の方々が熟議を重ねて創り上げた学校教育ビジョンが浸透し、それに基づく取組の効果が少しずつ芽吹いているように感じます。この若芽が大輪の花を咲かせるための岐路と言えます。この3年は教育委員会事務局による様々な場づくりや学校園による教育活動の改善などソフト面の充実に多大な労力がつぎ込まれました。しかし、労力には限りがあり、効果を見極める必要があります。また、ハード面の充実も予算の制限がありますから、「何を、どこまで、いつまでに」実現するか、期限設定(工程表)を定めておく必要があります。つまり、学校教育ビジョンの具現化に向けてどのような学校施設にするか、町当局と議論する段階から、決める段階に進まなければなりません。

全体的に、今年度確実な一歩が、皆様方のご尽力で、着実に進んでいるものと確信いたしました。来年度も、本稿で述べた諸事務・事業に対する意見を参考にいただき、「学校教育ビジョン」の着実な具現化、更なる発展を大いに期待しています。

V おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学大学院の村松敦准教授から、点検・評価につきまして、ご意見をいただき、今後の方向性についてのご示唆をいただきました。

今年度も、新学習指導要領に示された、小学校高学年での英語教育や中学校での道徳の教科化など、持続可能な早島の教育の実現に向けて、先行実施を行い、令和2年度の小学校の全面実施、令和3年度の中学校の全面実施に向け、計画的に取り組んできました。

本町では、平成25年10月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を3つの重点項目に掲げ、平成27年度から、早島町第4次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その更なる具現化に向けて取り組んできたところです。

こうした中、環太平洋大学や岡山大学の留学生、近隣の高校生や大人の方など、大勢の方に参加していただき、町探検ロゲイニングや外国の絵本の読み聞かせ、土曜英会話塾や英語スピーチコンテスト、だっぴとの生き方交流会などを通して、地域理解や国際的視野を広げてきました。また、道徳郷土資料「私たちの早島 つなげ未来へ」を活用した道徳授業や地域フィールドワーク教員研修など、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、キャリア教育の視点を踏まえて、「協働・協学・協育」の町へと一歩ずつ着実に進んでいると確信しています。

また、文部科学省のESD研究を小学校を中心に2年間の指定を受け、保幼小中一貫教育に向けて、ESDの視点を踏まえた生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの再構築を図り、文部科学省で2月に最終報告として全国発信を行い、その取組は全国モデルとして好評を博しました。来年度からは、中学校を中心とした国のESD研究指定を引き続き受け、町全体で、更なるカリキュラム開発を行ってまいります。また、演劇の手法を用いた授業づくりなど教員研修の充実を図り、授業改善を図るとともに、ボルダリング等を中心とした総合型地域スポーツクラブを立ち上げ、世代交流や体力づくりを進めてまいります。

今後も、持続可能な早島の教育を目指して、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスから見える現状をきちんと分析・検証するとともに、10年後の義務教育学校を見据えて、ハード面での検討を進めていき、小中一貫教育の充実に向けた運営体制を整え、一体的な教育課程の編成に取り組んでまいります。そして、「早島の子どものための成長のために」を合言葉に、早島の未来を見据えた教育行政を計画的に進めてまいります。